

令和5年度 自己評価計画書（中間評価）

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	評価・集計結果	前期の成果と後期への課題
1 新学習指導要領の趣旨を活かした授業実践に努めると共に、主体的・対話的で深い学びの実現と、資格取得に向けたスキルの習得とを両立した授業実践に取り組む。	① 生徒の主体性を引き出し、学力の向上につなげるため、今年度は特に、ICTの有効な活用方法を考え、授業において実践する。	教務課 各教科	昨年度の生徒対象のアンケートでは、肯定的回答が、一昨年度とほぼ同程度の68%であった。教員対象のアンケートも同様の傾向で、ICT活用への意識は高まっていない。しかしながら、研究授業においては、ICTの有効活用に積極的に挑戦する授業が見られた。	【満足度指標】 教員が授業でICTを有効的に活用している。	教員が授業でICTを有効に活用していると回答した生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC・Dの場合、授業方法及び内容を検討	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査	評価：【 B 】 前期生徒による授業評価アンケート 肯定的評価の割合【76】%	生徒の肯定的回答は、昨年度より8ポイント増加し76%となった。教員対象のアンケートでは、同様の項目で肯定的回答が昨年度の80%から83%へと上昇している。教員のICTの有効活用が生徒へのわかりやすい授業につながり、いずれも肯定的評価の増加につながった。昨年度より1人1台端末が配備され、より一層のICTを有効活用した授業研究と実践が必要となっている。
	② 生徒の知識・技能や思考力・判断力・表現力、学習への積極性を高めるための評価を工夫・実践する。	教務課 各教科	昨年度新たに導入された観点別学習状況評価において、評価材料、評価方法を試行錯誤しながら蓄積しているところである。引き続き、生徒の学力を多面的・多角的に評価し、各観点を偏りなく評価することができるよう工夫、改善を進めていきたい。	【努力指標】 生徒の知識・技能、思考力・判断力・表現力、学習への積極性を図るための評価方法を工夫・実践している。	生徒の知識・技能、思考力・判断力・表現力、学習への積極性を図るための評価方法を工夫・実践した教員の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC・Dの場合、改善策を検討	前期、後期に教職員を対象にアンケート調査	評価：【 A 】 前期教職員による学校評価アンケート 肯定的評価の割合【92】%	観点別学習状況評価が実施されて2年目となり、新たに2年生の科目において観点別評価を行っている。昨年度末の86%から92%に肯定的評価の割合が向上しているが、より一層の評価材料、評価方法の蓄積が必要となっている。
	③ 授業を中心に学校生活全般を通じて、表現する力・伝える力を向上させ、社会の即戦力として活躍できる人材を育成する。	教務課 各教科 各学年 特活指導課	昨年度の生徒対象のアンケートでは、肯定的回答が81%で、一昨年度の79%からやや上昇した。今後、さらなる高評価が得られるよう、授業における評価場面を工夫するほか、部活動や金商デパートなどの教育活動をその応用の場として設定し、表現力・伝える力の育成に努めていきたい。	【満足度指標】 授業の学習活動の中で「表現する力・伝える力が向上した」と感じる生徒が増加している。	授業の学習活動の中で「表現する力・伝える力が向上した」と感じる生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC・Dの場合、方法及び内容を検討	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査	評価：【 A 】 前期生徒による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 全体 【82】% 1年 【84】% 2年 【78】% 3年 【84】%	肯定的回答が82%で昨年度と同程度であった。今後さらなる高評価となるよう、引き続き授業だけでなく、金商デパート等の実践教育の場や部活動においても表現力等の育成に努めていきたい。
	④ 各種検定試験の取組を通して学習意欲を高める。商業科と情報交換しながら、現状把握に努め、授業・補習・課題をセットにした取組を行う。	教務課 商業科 各教科	一昨年度の取得者数と比較すると、約30人の減少となった。昨年度の3年生は、入学直後に2か月間の休校となった学年で、基礎基本を固めるべき時期に満足な指導を行えなかったことが、その要因の一つである。 今年度からは、1年次の1学期に、商業高校での学びの意義を生徒が理解できるように丁寧な取組を行い、検定受検へ向けての意欲の喚起につなげていきたい。	【成果指標】 各学年でそれぞれの目標を持ち、資格取得の意欲が向上し、取得につながっている。	3年次の全商検定1級3種目の取得者が、 A 160人以上である B 140人以上である C 120人以上である D 120人未満である	評価がC・Dの場合、指導方法及び内容を検討	年間を通じて調査		検定試験へ向けた生徒の学習意欲を喚起するとともに、商業科の教員やクラス担任と連絡を密にとりながら補習授業等を行い、生徒の資格取得を支援していきたい。

令和5年度 自己評価計画書（中間評価）

石川県立金沢商業高等学校

No. 2

肯定的評価=アンケートの回答A+B

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	評価・集計結果	前期の成果と後期への課題
2 ビジネスマナー教育、実践教育、国際理解教育、おもてなし教育の更なる充実に取り組む。	① 相手の顔と目を見てさわやかな、相手に伝わる挨拶を日常的に実践し、社会に貢献できる生徒の育成に取り組む。	生徒指導課 全学年	昨年度のアンケート結果を、生徒、保護者、教職員の対象別に見ると、肯定的評価は、生徒及び保護者では8割を超える結果であったが、常に生徒と接している教職員の評価は75%にとどまった。 生徒の自由記述には「挨拶の向上・強化をはかりたい」等の意見が多数見受けられ、挨拶に対する生徒の意識の高さは感じられる。	【満足度指標】 相手の顔と目を見てさわやかな、相手に伝わる挨拶ができています。	生徒が、「相手の目を見て、さわやかな気持ちのこもった」挨拶をしていると評価する割合が、生徒、保護者、教職員のいずれにおいても、 A 85%以上である B 75%以上である C 70%以上である D 70%未満である	評価がC・Dの場合、指導方法を検討	前期、後期に全生徒、保護者、教職員を対象にアンケート調査	評価：【 A 】 前期生徒による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 生徒【92】% 保護者【93】% 教職員【88】%	昨年度の同時期と比べ、生徒、保護者の評価は向上している。コロナ禍以前の生活に戻つつあり、生徒からの挨拶の声も聞かれるようになってきている。 今後は、ただ挨拶をするだけでなく、「質を伴った挨拶」ができる生徒に育てていくことが大切である。まずは教職員が「質を伴った挨拶」を生徒に行っていくよう心がけていきたい。
	② 生徒指導が主体となり、公安委員・生徒会執行部と協力しながら遅刻0の徹底を推進していく。	生徒指導課 特活指導課	これまでの反省を踏まえ昨年度は、担任と協力して保護者等への連絡を徹底した成果として111日となった。 今年度も担任と連絡を密にとり130日以上を目標に指導したい。	【成果指標】 年間を通じて遅刻をせず、始業時間を守っている。	遅刻0の日が年間を通じて、 A 130日以上である B 110日以上である C 90日以上である D 90日未満である	評価がC・Dの場合、指導方法を検討	年間を通じて調査		前期においては、遅刻ゼロの日は28日であった。昨年度の同時期は37日、年間を通じて111日であり、B評価であった。 常習的に遅刻をしてしまう生徒が増加しており、その要因は基本的な生活習慣が確立していないことにより、家庭との協力が不可欠である。今後も学年担任団や家庭との連絡を密にし、遅刻者が減少するよう努力したい。
	③ マナー教育を含めた総合的な商業教育実践の場となっている金商デパートに積極的に取り組む。	特活指導課	昨年度の生徒対象のアンケートでは、肯定的評価は90%超となったが、一昨年度の96%に比べるとやや低下した。 今年度は、金商デパートで活用したい知識や技術の明確化を図り、生徒がより実感をもって、商業の学びを実践できるよう段取りしていきたい。	【満足度指標】 金商デパートにおいて商業科で学んだ知識や技術を生かしている。	金商デパートにおいて、商業で学んだ知識や技術を生かせたと感じる生徒の割合が、 A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	評価がC・Dの場合、運営方法を検討	金商デパート終了時に、全生徒にアンケート調査		9月から外部講師を招いてのマナー講習会などを、金商デパート直前には校内の講習会を行う予定である。
	④ 基礎的な英語を使つての実践的なプロダクティブ・スキル（話す力・書く力）に重点を置いたコミュニケーション能力の育成に取り組む。	外国語科	昨年度の生徒対象のアンケートでは、肯定的評価は70%を超え、一昨年度の64%から向上した。シンガポールとのリモート研修や、アクティブ・イングリッシュなどの授業で、実践的な英会話を経験した生徒たちの評価が数値を押し上げている。ただし、それらの経験者は限定的なので、今年度は、全員が履修する授業にの改善を図り、80%超を目指したい。	【成果指標】 年間の様々な取り組みを通して、英語を使って自分の考えを相手に話したり、書いたりして伝える力が向上したと生徒自身が実感できる。	生徒の自己評価アンケートで、前述の能力が「以前より向上した」と感じる生徒の割合が、 A 80%以上である B 60%以上～80%未満である C 40%以上～60%未満である。 D 40%未満である	評価がC・Dの場合、授業や考査のあり方・内容を検討	年度末に科としての独自アンケート調査		学期ごとに、話すこと（やりとり・発表）・書くことのパフォーマンステストを実施し、言語活動の成果を確認している。今後は、生徒が学習上の課題の解決に向けて主体的に取り組むことができるように、授業改善を図る。

令和5年度 自己評価計画書（中間評価）

石川県立金沢商業高等学校

No. 3

肯定的評価＝アンケートの回答A+B

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	評価・集計結果	前期の成果と後期への課題
3 生徒の希望する進路実現へ向けて、各学年に応じた計画的なキャリア教育に取り組む。	① 就職希望者に対して、企業ならびに同窓生と連携を深め、各種ガイダンス機能の充実と希望企業への実践的な面接指導を実施し、進路実現を図る。	進路指導課 (就職) 3学年	昨年度は求人受付件数がコロナ前まで回復し、進路行事も概ね予定どおり実施することができた。求人情報をWebで閲覧できるようにしたことで、企業情報をより調べやすくなった。	【成果指標】 就職希望者において、進路実現に向けて具体的な取り組みができています。	就職希望者において、ガイダンスや面接指導を通じて希望の職種・業種への進路実現を達成できたという生徒が、 A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	C・Dの場合、取り組みを検討	前期、後期に、3年生就職希望の生徒を対象にアンケート調査	評価：【 B 】 前期生徒による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 3年 【90】%	コロナ禍の影響を受けることもなく、今年度はガイダンスや面接指導を予定通り実施することができている。本校OBとのパネルディスカッションや県主催の「高校生のための企業ガイダンス」に参加することも希望職種を明確にする一助となっている。 求人票の取扱いについてはネット上から閲覧できるようにしており、利便性が向上している。
	② 進学希望者に対して、ガイダンスや補習を計画的に実施し、早期から志望分野・志望校への進学意識を高める。	進路指導課 (進学) 2学年 3学年	3年生には具体的な事例を示しての情報提供を心がけ、生徒が見通しを持って進路を決定し、受験に臨むことができた。一方で、行事の関係で進路指導の時間をあまり取れなかった2年生の評価は低かった。	【成果指標】 進学希望者において、長期的な視点を持って、受験勉強に取り組み、学力向上に努めている。	進学希望者において、長期的な視点を持って、受験勉強に取り組み、学力向上を向上させることができたと答えた生徒が、 A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	C・Dの場合、取り組みを検討	前期、後期に、2・3年生進学希望の生徒を対象にアンケート調査	評価：【 D 】 前期生徒による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 2年 【78】% 3年 【86】%	進路ガイダンスにおいて生徒に示す内容がマンネリ化しており、推薦入試等の情報提供が不足している。今後のガイダンスの内容を見直し、長期的な視点を持って受験勉強に取り組む必要性に気づかせる。 また、商業高校として幅広いキャリア教育を行い、志望分野や志望校選びにつなげていく。
	③ 1年生に対して、進路ガイダンスや総合的な探究の時間を通じて、就職や進学についての理解を深めさせ、進路への見通しを持たせる。	進路指導課 1学年 2学年	進路説明会や分野別ガイダンスなど、進路行事は概ね実施できた。しかし、まだ2割を超える生徒が具体的な進路を設定できていない。	【成果指標】 1年生において、希望する進路に向けた具体的な進路希望を設定することができています。	進路の実現に向けて、具体的な進路希望が設定できたと答えた生徒が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C・Dの場合、取り組みを検討	前期、後期に、1年生の生徒を対象にアンケートを調査	評価：【 A 】 前期生徒による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 1年 【86】%	進路説明会や分野別ガイダンスなどの進路行事を通してコース選択を含めた進路を考える機会を設定することができている。 今後とも学年団と連携を図り、様々な機会を捉え、進路決定につながる講話等を生徒に行うとともに、家庭内においても進路についてしっかりと話し合えるよう資料提供等を考えていきたい。

令和5年度 自己評価計画書（中間評価）

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	評価・集計結果	前期の成果と後期への課題
4 心身の健康と豊かな人間性の育成に向けて、部活動、特別活動、安全教育等の更なる充実に取り組む。	① 運動部の県大会において、優勝を目指す。	特活指導課	県大会においてベスト4以上の成績を収めることができた部活動数は、令和元年度～4年度は9、平成30年度は10である。	【成果指標】 ベスト4以上の部活動が、目標を上回ることができた。	県大会でベスト4以上の運動部が、 A 9部以上である B 8部である C 7部である D 7部未満である	評価がC・Dの場合、指導を検討	大会報告書による調査	評価：【 D 】 ベスト4以上 ：【 5 】部	春季大会や県総体において、女子バレーボールが優勝、少林寺拳法が第2位、男子バレーボール、ハンドボール、テニスが第3位の成績を収めることができた。ベスト8で惜しくも敗退の部活動もあるので新人大会に期待したい。
	② 文化部・商業部の県大会（総文・新人）において団体優勝が、のべ4競技以上を目指す。	特活指導課 商業科	高文連商業部競技大会の総文・新人において、昨年度、団体優勝することができたのは、珠算、電卓、ワープロの3競技である。令和元年度までは、情報処理と簿記でも優勝していたが、近年、その2競技においては団体優勝を逃している。	【成果指標】 団体での優勝が、目標を上回ることができた。	県大会（総文および新人）で団体優勝をする競技が、延べ、 A 5競技以上である B 4競技以上である C 3競技である D 2競技以下である	評価がC・Dの場合、指導を検討	大会報告書による調査	評価：【 C 】 団体優勝 ：【 3 】競技	県総文の演劇合同発表会において演劇部が最優秀賞および創作脚本賞を受賞することができた。高文連商業部競技大会においては、珠算、電卓、ワープロ競技で団体優勝することができた。また、ESSが第2位の成績を収めている。新人大会においては優勝する競技数が増加することを期待したい。
	③ 各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動等の充実と活性化を目指す。	特活指導課	新型コロナの影響で、一昨年度から地域行事が減少しているため、ボランティア活動の機会自体が少なくなっている。その中でも幾つかの部活動は学校周辺の清掃や除雪など実施している。	【成果指標】 各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動に自主的に取り組めた。	各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動に自主的に取り組んだ生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC・Dの場合、活動内容や取り組み方を検討	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査	評価：【 A 】 前期生徒による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 全体 【 83 】 % 1年 【 86 】 % 2年 【 80 】 % 3年 【 83 】 %	前期には体育祭など学校行事において生徒会を中心にしっかりと活動ができた。ボランティアにおいても、部活動を中心に学校周辺の清掃などで実施している。後期の活動にも期待したい。
	④ 校舎内の清掃をきちんと行い、ゴミの分別をきちんと行う意識を全生徒が持ち、自主的に行動することを目指す。	保健環境課	清掃については、概ね良好に実施されているが、監督する教員不足のため場所によっては清掃が徹底しない状況が続いている。また、近年、コロナウイルス感染症予防の観点から教員が行っていたゴミ回収の作業を、美化委員会に戻していきたい。	【成果指標】 美化委員及びトイレの清掃係を中心に清潔な環境の維持に努め、ゴミ分別の意識を高めることができた。	清掃をきちんと行い、ゴミの分別をしつかりできる生徒の割合が、 A 98%以上である B 95%以上である C 90%以上である D 90%未満である	評価がC・Dの場合、指導を検討	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査	評価：【 A 】 前期生徒による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 全体 【 98 】 % 1年 【 97 】 % 2年 【 98 】 % 3年 【 99 】 %	清掃は概ね良好に実施されているが、教室、トイレ、更衣室等、使用頻度の高い場所の清掃を更に徹底させる。ゴミの分別についても概ね良好であるが、燃やすゴミの中にペットボトルや空き缶等が混ざっていることが僅かに見られる。ゴミ分別の意識をさらに高めていきたい。
	⑤ 「石川県いじめ防止基本方針」に則り、いじめを起こさない学校づくりに努める。	全教職員	肯定的評価は100%であったが、今後もいじめの発生要因への理解促進に努め、未然防止へ向けて日常的に行動できる教員の増加に繋げていきたい。	【努力指標】 いじめの未然防止に向け、校内巡視や情報の交換・共有を意識的にやっている。	いじめの未然防止をしている教員の割合が、 A 100%である B 95%以上である C 85%以上である D 85%未満である	評価がC・Dの場合、啓発活動などの改善策を実施	前期、後期に全教職員を対象にアンケート調査	評価：【 A 】 前期教職員による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 【 98 】 %	いじめの未然防止の取組は、生徒が安心して学校生活を送るための基盤である。肯定的評価が100%となるよう、教職員の意識・行動をさらに高めていきたい。
	⑥ 生徒の安全確保を図るため、実践的な安全教育を推進する。	総務課 全学年	避難訓練については、適宜実施しているが、生徒には非常災害時を想定し、安全で迅速に避難する力を身に付けさせる必要がある。	【努力指標】 非常災害発生時の避難経路と避難場所を理解し、避難訓練に参加できている。	避難経路と避難場所を理解し、避難訓練に参加している生徒の割合が、 A 100%である B 95%以上である C 85%以上である D 85%未満である	評価がC・Dの場合、啓発活動などの改善策を実施	年度末に全生徒を対象にアンケート調査		避難経路及び避難場所を生徒自身が理解できるよう、教室に掲示する避難経路図を生徒目線のものに変更した。後期に予定している避難訓練においては、消防など関係団体から指導・助言を受けながら、生徒に安全で速やかな避難行動や適切な判断ができる力を身に付けさせたい。

令和5年度 自己評価計画書（中間評価）

石川県立金沢商業高等学校

No. 5

肯定的評価＝アンケートの回答A+B

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	評価・集計結果	前期の成果と後期への課題
5 開かれた学校づくりに向けて、教育活動の成果の積極的な発信に取り組む。	学校行事や特色ある教育活動等について、生徒・保護者・地域から求められる情報を、ホームページ、広報誌やPTA活動等を通じて発信する。	総務課 各学年	本校の教育活動や生徒状況等について、定期的に情報を発信しているが、細やかで、タイムリーな情報発信が必要である。	【成果目標】 本校の教育活動や生徒状況等の理解に役立つ最新の情報を提供する。	「配付物やホームページ等による情報が、教育活動の理解や生徒状況の把握に役立つ」と評価した保護者の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	評価がC・Dの場合、取り組みの方法を検討	前期、後期に保護者を対象にアンケート調査	評価：【 B 】 前期保護者による学校評価アンケート 肯定的評価の割合【87】%	前期はホームページの充実を図り、各種学校行事の情報をリアルタイムに掲載するとともに学年通信を定期的に掲載することで概ね肯定的な評価を得たと考えている。後期は金商デパートの情報等を中心に、PTAとも協力し会報の発行やタイムリーな情報発信に努めていきたい。
6 教職員の多忙化改善に向けて、業務内容の精選と遂行方法の改善に取り組む。	働き方改革の趣旨に則り、業務改善に努め、教職員の時間外勤務時間の短縮に繋げる。	全教職員	時間外勤務の内容を見ると、一年を通じて部活動指導・大会引率、年度当初はコロナ対応、10、11月は金商デパート準備、修学旅行引率などその時期固有の行事に伴うものが多かった。 教員の仕事の性質上、ある時期に業務量が多くなるのはやむを得ない面もあるが、特定の個人への業務量の偏りをなくすこと、年間を通じて業務過多となる教員が出ないことを心掛けた。	【成果指標】 1月当たりの平均時間外勤務時間が80時間を超える教職員数の削減ができた。	年間の時間外勤務時間が、平均して月80時間を超える教職員の数が、年間で、 A 0人である B 1～3人である C 4～6人である D 7人以上である	評価がA以外の場合、対策を検討	毎月の時間外勤務時間記録の集計結果	評価：【 B 】 4月～8月における時間外勤務時間が、平均して月80時間を超える教職員数【1】人	時間外勤務時間80時間超えの主な要因は、年度始めの業務準備と部活動指導であった。後者については、年間を通して適切な勤務時間になるよう努力していきたい。また、業務の平準化に努めるとともに、削減できる業務がないか見直しをかけていきたい。